

てげなみ

〒298 0111 千葉県いすみ市万木二二番地
社会福祉法人横の里 いすみ学園
電話 〇四七〇(八六)三六一二
E-mail アドレス ismi3412@tian.ocn.ne.jp

第 102 号



利用者の抱負

健康面に気をつけて、毎日楽しく過ごしたい。
(崇嘉)

グループ実習も仕事も休まない。時間までに上に上がってきます。
(正巳)

今年も農道と万木城、頑張ります。
(俊朗)

今年も明るく元気に！スマイルな一年になりますように
(俊哉)

ケガをしないように気を付ける。
(隆明)

今年、おいしいカレーライスで沢山食べに行きます。
(清)

健康に気をつけて、元気な一年を過ごします。
(賢治)

いつもニコニコ笑顔いっぱい、暮らせるように頑張ります。
(拓也)

お仕事を頑張る。一生懸命頑張る。
(功博)

元気に、楽しく過ごしたい。
(直人)

今年も学園にお姉さんが来るといいな。
(勇)

チョコレートとあんこを楽しみつつ、今年も健康第一に過ごそう!!
(伸和)

歯磨きを頑張る！少しのダイエットをする！
よく寝て、よく食べる。健康な一年にします。
(肇)

二〇一六年
あけまして
おめでとらござります

いつもの調子。こんな感じかな。楽しく仕事がしたい。
(隆行)

今年も「笑って」「笑って」「笑って」
楽しい毎日を過ごします！
(次郎)

健康第一で、仕事に遊びに楽しい毎日を送るぞ！
(直樹)

毎日楽しく過ごしたいです。健康でいられる一年にします。
(和彦)

毎日を明るく。元気に。笑顔で過ごします。
(忠弘)

一年病気などをせず、元気に過ごします。
(勝己)

仕事を精一杯頑張ろう！
(伸泰)

お仕事頑張って「本」買うの。
(哲)

グループホーム目指して頑張るぞ！
(順二)

心穏やかな一年としたい。楽しいこともいっぱいするぞ!!
(諒)

今年、病気をしない一年にしたいです。
(直行)

美味しいものをたくさん食べて、楽しく暮らしていきます。
(裕輔)

怪我なく健康で、万木織りを一生懸命頑張ります。
(近司)

スカイツリーに行きたい。
身体を動かして健康に過ごそう！
(陽)

元気に毎日過ごす。
(寛)

仕事をしっかりと行い、欲しい物を沢山買いたい。
(陽介)

今年も沢山体を動かし、気持ち良く働けど。外食も行きたい。
(譲二)

今年、仕事を頑張ります。
僕は、サッカー観戦などに行きたいです。
(透)

若い者に負けずに頑張る。
(山雄)

僕は、西川の仕事を頑張ります。
(一夫)

風邪をひかないよう、仕事頑張ります。
(和好)

健康で元気良く、学園に来て作業を頑張ります。
(貴弘)

色々な作業に挑戦したいです。
(清伸)

楽しみながら作業をします。
(健夫)

身体を動かす楽しみを見つけ、少し痩せたい。
(文宏)

『健康第一』お仕事頑張ります。
(陽一郎)

仕事も休みも楽しむぞ!!
(大作)

九州に旅行に行きたいです。
ゆつたりのんびり、温泉に行きたいです。
(康恵)

今年こそは、東京ディズニーランドに行きたいです。
(麗子)

お仕事を頑張っておいしい物をたくさん食べたいです。
(美千代)

笑顔で毎日楽しく過ごしたいです。
(潤子)

万木工舎での仕事を頑張る、たまにはパフェを食べに行きます。
(祐子)

旅行に行つて、美味しい物をたくさん食べたいです。
(理恵)

健康で過ごせますように。おいしいものいっぱい食べたいです。
(香織)

来年は加工棟でケーキやクッキーほかのお仕事も頑張ります。
(泉)

美味しい物を沢山食べに行きたいです。
友達と仲良く笑顔で過ごせるようにする。
(順子)

友達と仲良く笑顔で過ごせるようにする。
(雅子)

毎日元氣にお仕事がんばります。「シヤケ」の仕事もがんばるぞ!! (純子) きれいな石けんがいっぱい売れますように。しゃぶしゃぶ食べたいです。(明子)

毎日笑顔でがんばります。(真砂子) みんなとたくさんお話したいです。カラオケもたくさん歌いたいです。(文子)

いつも助けてくれるれい子さんと、仲良く暮らしていきたい。(あけみ) 楽しい事がいっぱい的一年になりますように。わんちゃんに会いたい。(昌子)

最後まで自分の仕事に責任を持ち周りの人から必要とされる人になる。(由紀)

万木織りがんばります。(理絵)

コミック本をぜひ読んでみたいです。お神輿を担ぎたいです。(間子)

しっかり寝て頑張ります!(恵里子) 仕事を頑張る。(江美)

棟のお仕事頑張ります。(富美) 包丁で指を切らないようにする。(恵里)

職員の抱負

新たな一歩は、三十年の歴史の上にある事を。(施設長 秋元泰司) 家庭・仕事・体を大切にすばらしい一年としたい。(事務長 小林 悟) 健康第一。利用者が笑顔になれる年になりたい。(鶴岡田鶴子)

新たなステージを目前に、職員一人一人の力を結集します。(課長 堂下 勉)

皆様が安心して過ごせるように支援します。(横内義明)

みなさんと、喜び・楽しみを一緒に感じあえる一年にする。(井上秀一) 職場も家庭もエンマンに! そうです。今年「申(猿)年」です。(加茂正和)

利用者の皆さんと楽しい時間を一緒にすごす。(三上慎一郎) 初心を忘れず、チーム一丸となり良い

今年もよろしく お願いいたします



食品作りを目指す。(田邊清万)

毎日を大切にして、やり残しの無い様にしていきます。(軽込進一)

新たな経験、新たな知識と教養を身に付ける。(長沼 毅)

初心に戻ってみよう。(横田武志)

一年間、無病息災で家族と利用者の笑顔の為にがんばります!(片岡彰則)

当り前の事が幸せであると感謝して日々を大事に歩いていく。(屋代精一)

『一日一生』(篠崎俊克) 家庭、仕事において一生懸命頑張ります。(金城正直)

健康第一。(佐久間雅也)

健康第一。身体を鍛えて病気をしない身体を作ります。(高地優輔)

日々を笑顔でいられるよう努めます。(関野洋史)

一日一日を大切にしていきたい。(三神颯人)

健康管理、特に「腰」を痛めないように頑張ります。(泰居容一)

利用者との関わりを大切に、笑顔の日々を過ごせますように。(竹内詠子)

興味と関心を持って、新しい発見を重ねられるようにしたい。(鈴木典子)

今までの私を大事にしながら、新しい私へ!! (片岡恵美)

健康第一! 毎日、皆で笑って過ごせますように!! (岩瀬佳代子)

初心を忘れずに、新しい事への挑戦も。 (岩瀬祐三子)

遂にアラサー!! 大人の女性として輝けるようにします。(峰嶋友希)

笑顔忘れず、私らしく。(松本みゆき)

笑顔でハッピーな日々にならな(曾津みどり)

笑顔たくさん、楽しく充実した年にならな(小島七生)

りますように。(渡邊美帆)

子どもと共に、成長する年にしたい!(鈴木ゆかり)

元気で明るく仕事をして、楽しく過ごすお手伝いをしていく。(江澤徳子)

健康に注意し元気に仕事ができますように!(市東やす子)

明るく元気に、思いやりを大切に、新しい年へ。(吉野晴美)

利用者さんと、明るく楽しく、健康で過ごせますように。(鈴木 晃)

常に寄り添う支援を!(仲佐 操) 一年間、病気や怪我のないように!(長田圭司)

思いやりを大切に、年を重ねていきたいと思えます。(越川明子)

健康で楽しい一年でありますように。(八木三枝)

利用者さんの事を、理解できるように努力したいと思えます。(藤平浩美)

健康に気をつけて、元気で、仕事ができますように。(魚地静子)

利用者さんとのコミュニケーションを多く取り楽しく過ごさす。(土屋早苗)

初心を忘れずに、一日一日を大切に過ごしていきたいです。(君塚弘江)

明るく楽しい年にしたいと思えます。(池田恵里子)

皆様が健康でありますように!(花崎京子)

利用者と共に健康で、元気に過ごせますように。(小柴さい子)

感謝と笑顔忘れずに、楽しく過ごしたいです。(小島七生)

『二十八年度に向けて思う事』

施設長 秋本 泰司

昨年中は皆様に大変お世話になり、有難うございました。

「原井利夫氏を偲ぶ」

昨年十月二十五日、長期療養中でした元施設長「原井利夫氏」が享年九十歳で逝去されました。

利用者・保護者・職員はその悲しみが癒える間もなく新しい年を迎えることになりました。

故原井利夫氏は、学園創設以来三十二年、いすみの里で単身生活を続け、利用者の為に多くの歴史を積み上げてこられました。

特に、ここ数十年に亘る制度改革では、学園創設時には考えられなかった取り組みや経営手腕なども求められ、幾多の迷いもあったと思います。

東京都のモデル事業として学園が率先して取り組んだ事も多くあります。

それらも含めて今日のいすみ学園があるのもその決断に間違いはなかったからです。

学園は今、三十年以降の新たな歴史づくりに向けて歩き始めています。

原井利夫氏のいすみ学園に託した想いは沢山あります。

それらを継承しつつ、その時々の利用者の求めに応えられるよう、これからも取り組んでまいります。

今後とも、皆様のご支援をよろしく願います。

「高齢化・・・」

いすみ学園の高齢化対策は、これまでもいくつかの柱に沿って取り組んでまいりました。

一昨年に立ち上げた「検討委員会」もその一つで、昨年は、佐倉千手会が新設した高齢者施設「さくら福寿苑」の見学をして、管理者から色んなお話を頂き、多くの情報を頂きました。

それらも参考にして二十八年度には新棟建設について方向性をまとめる事にしていきます。

ただ去年、介護報酬が下がり、三年後の改定でも今以上の引き下げ方針が既に示されており、後追いすると言われる障がい分野への波及は、計り知れないものがあります。

又、厚労省が「主任相談支援専門員（仮称）」を新設して、高齢者支援の検討を始めるとしています。介護保険との関係も見えず、不安定要素は数限りなくあります。

学園は、それらの動向に注視しつつ、この一年を無駄にすることなく進めていきたいと思っております。

「人材育成・確保」

これまでも繰り返し述べてきた事で

すが、学園に求められるサービスは、年々個別化し、多様化してきています。

利用者ニーズに添える為には、支援員にはより専門的な知識と技術が求められています。

学園では十数年前から介護福祉士などの専門資格の取得を奨励してきました。

現在では半数以上の支援員が取得者となっております。

二十八年度には、地域の老人介護施設との情報交換会を皮切りに、高齢・虚弱化が進む利用者への支援力をより深める為に実地研修なども計画しています。

又、職員の高齢化も大きな課題で、ここ二年、地域の介護施設等も含めた「合同面談会」を開催してきました。

まだその成果は出ていませんが、十年後には、介護関連で二百五十万人の人手が必要とされている中、この地で求める人材を確保できるか、とても深刻な問題です。

「厳しい」と言われている福祉の労働条件の見直しも必要になるかも知れません。

二十八年度の大きな柱として取り組んでまいります。

「権利擁護」

ご存じの様に、毎年のように障がい者に対する虐待報道があります。

報道された事件は、どれもショッキングで、誰が見ても虐待であると分かります。しかも、区市町村窓口への相

談件数や報道されない事例は、その何倍もあります。

利用者は権利の主体者であり、支援員は権利の擁護者である。

この事は誰でも理解できることです。いすみ学園は、他山の石以て玉を攻むべしで二十八年度も続けてまいります。

「社会・地域貢献」

昨今、社会福祉法人の在り方が問われ、その中の一つに社会福祉法人としての「社会・地域貢献」があります。

今回の機関誌さざなみで紹介しています「孫の手」もその一つです。

これは、いすみ市は千葉県下でも特に高齢化率が高い地域であり、いすみ市が高齢者生活援助事業として設けている「孫の手」事業に、いすみ学園として参画できるかどうかを今、試行している段階です。

これが地域貢献か、忙しいのに、という声もありますが、利用者と学園が地域の一員として新たな評価を受けられる機会にもなります。

どこまで応えられるかは、やってみなければ分かりません。新しい取り組みには、必ず壁があります。だからと言って、いつまでも過去にとらわれていては何も生まれません。

既に、学園は新たな「一歩」を踏み出しています。一つ一つは手探りでも、前に進んでいると実感できる、そんな年にしたいものです。

皆様の温かいご支援を引き続きお願い致します。

いすみ学園初代施設長 故原井利夫氏を偲んで

社会福祉法人 楨の里 理事長 土肥 豊

この度は盟友原井利夫氏のご逝去に接し、誠に慚愧の念にたえません。

ここに謹んで故人の功績を讃え、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

さて、原井さんと初めてお会いしたのは、かれこれ50年以上前のあすなろ学園時代にさかのぼります。現在は無くなってしまうしましたが、三重県津市にある高茶屋病院に併設された当時としては全国的にも稀な小児自閉症の専門療育施設「あすなろ学園」に十亀史郎先生という自閉症専門の小児精神科の名医がおられ、その名声を慕って日本全国から自閉症の子供を持つ親達が先生の療育を受けさせるべく集まっていました。東京からも数人の自閉症の子供を持つ親達が自分達の子供を入園させていました。そのお仲間、原井さん、丸浦さんがおられ、私の娘も学童期の初めに原井さんのご紹介で十亀先生の診察を受け、入園させて頂いたのです。そのようなわけで、子供たちが成人期に達するまでの十余年を、共にあすなろ学園の保護者会の一員として学園の様々な行事に参加することによって親しくお付き合いをさせて頂いたわけです。その後、あすなろ学園の延長として成人期以後の子供たちを

療育してくれる施設を十亀先生の指導のもとに作ろうということになり、同じ県内の四日市に「あさけ学園」を設立しました。その後三重県では面会

に行くにしてもあまりにも遠いので東京近郊に同様の施設を持ってないだろうかという気持ちを持ち始めていた時、当時都庁に勤めておられた原井さんも、お嬢さんのために東京近郊に施設を創りたいと、かねてより適当な土地を求めて奥様と共に千葉県内の土地を物色しておられたとのこと、一緒にやってみませんか」というお誘いがあり、東京都のご援助で近郊にそのような施設を創らせてもらえるなら、願ってもないことなので、是非その計画に参加させて下さいとお答えしたのでした。そこで、発起人会を作る準備に取り掛かったわけですが、事務局長候補として真っ先に白羽の矢をたてたのは、以前からお知り合いだった「あすなろ学園」のお仲間、その頃はご子息を川田先生、「こころみ学園」に預けておられ、そこでのワインの製造に重要な役割を果たしておられた丸浦さん（当時東京地検特捜部勤務）を何とか川田先生を口説いて、これから作る我々の学園の事務局長としてお迎えできないだろうか

と考え、原井さんと二人でこころみ学園に行き、渋る川田先生をやつとの思いで泣き落とし丸浦さんにわれわれの計画に参加して頂くことに成功したのでした。期せずして3人も大正15年という同年代の生まれでトリオを組むことになったわけで、学園長原井利夫、事務局長丸浦岩夫、理事長土肥豊の役割分担で、他に10人程の発起人の方々と共に活動を開始致しました。丁度、都庁勤務の傍ら、千葉県大多喜の或るお寺の御住職も兼ねておられた尾高氏（後の当法人の理事）のお世話で、現在の学園の土地を取得することが内定し（昭和56年5月8日）、その秋（10月26日）には地鎮祭が行われ、同じ年の11月4日には厚生労働省より社会福祉法人設立認可が下り、同16日には法人設立登記が行われ、建設に向けた本格的作業が開始しました。原井園長、丸浦事務局長のお二人は長年勤められた職場を定年を待たずに退職され、学園建設一筋に努力を傾注されました。地元の方々の説得をはじめ、各方面との折衝その他諸々の業務は並大抵のものではなく、ご苦労は察するに余りあるものでした。その甲斐あって昭和59年4月には成人期以降の自閉症およびその関連疾患に特化した知的障害者施設として、30名の定員で開園することができました。原井園長と丸浦事務局長は夫々の立場で二人三脚を組み、管理運営を担当され、開設したばかりで方向の定まらぬ学園の舵取りを、寝食を忘れて奮闘

して下さいました。特に原井園長は学園の開設当初から昨年最後に学園を去る時まで、東京のご家族と離れ、学園の敷地内の園長宿舎に単身で生活され、日夜を分かたず利用者を見守って下さったのでした。その後、二回の定員増により52名とし、また平成4年10月にはグループホーム「さくらの家」、同15年4月には通所棟「万木工舎」、同21年10月にはグループホーム・ケアホーム「たんぼの家」を加えて現在のいすみ学園の全容が完成したわけですが、これらは何れも原井園長の許で、多くの善意ある方々のご芳志に支えられて建設出来たものであります。このように、学園の初期計画の段階から、現在のいすみ学園の全容が整うまでの長期間にわたって、丸浦事務局長と共に原井園長が中心的役割を果たしてこられたこと、そして若し彼の存在がなければ現在のいすみ学園は設立し得なかつたであろうことを改めて懐旧し、衷心よりの感謝の意を氏のご霊前に捧げます。原井先生、どうぞ安らかに眠り下さい。

合掌



『原井元施設長を偲ぶ』

保護者会長 谷島慶彦

原井元施設長に初めてお目にかかったのは、いすみ学園開設前の昭和五十八年と記憶している。知的障害者の入所施設を作ると云う話を聞き、紹介を得て、当時養護学校中学二年の息子を連れて、入園願いに豪徳寺のご自宅を訪問した。にこやかな中にもはつきりした物言いに、凜とした姿を感じ、この人なら子供を安心して託す事が出来るかと直感した。幸い良い返事を頂き、息子の進むべき道が開けた喜びに、今でも鮮明に想い出される。

開園五周年を経た頃、原井元施設長より、私に保護者会長の要請があり、一度は辞退したが、重度の利用者ほど学園で手を掛け支援するので、親はその分学園に協力してほしいと、口説かれ引き受ける事にした。しかし利用者支援の立場の違いから、学園に要望や要求する事で、ずいぶん意見を闘わせてきた。ある時保護者の代表として、利用者を守ると云う正義感から主張する事は分かるが、学園の立場も理解して欲しいと言われ、以降反省した。原井元施設長には、永い間包容力を持って、保護者会長として育てて頂いたと感謝している。

原井元施設長の特筆すべき一つに、昭和五十四年に「精神薄弱者の福祉・自立と援助の為に」題した著書を発行し、知的障害者の実践福祉の入門書として、多くの福祉関係者に読まれ、第七版迄発行している。それをご自身で実践して昭和五十九年いすみ学園開設へと繋げて云ったと聞いている。その知識と実践が多くの入所事業者に支持され、加えて指導性を発揮なされた事により名を広められたと思う。また都庁のご出身に加えて、人脈を広げる術をお持ちの方で、その顔の広さから、いすみ学園の諸施策や設備拡充に多くの貢献を頂いたと思っている。

原井元施設長の集大成とも云うべきいすみ学園三十周年記念行事が終わりしばらくして、肺炎を悪化させて体調を落とし、いすみの病院に入院を続けていられたが、昨年六月にご自宅近くの病院に転院される事になりお見舞に伺った。視力が相当衰えていた様だが、私の声の方に精いっぱい顔を向け、手を差し出され、私は両手でその手を握り、「早く良くなって下さい」と云うのが精いっぱいでした。それが最後のお別れになってしまった。

原井元施設長は、夢を描き実現された人だと思う。そして心血を注いで築きたいいすみ学園を、そのご意志を引き継ぎ、高齢化に進む利用者にとつた、優しさと思いやりのある施設である様、学園と協力して努めてゆきます。どうか、天国でお見守り下さい。

原井利夫氏を偲ぶ

日本音楽著作権協会理事
日本作詩家協会理事

たきのえいじ

平成七年に始まった『いすみ歌の祭典』が22年目を迎える事が出来た。体育館には、父兄の方々が沢山来られてにぎわいを添えていただいた。

いつもなら、原井利夫先生の挨拶から幕があくのだが、10月に亡くなられて会場にはいらつしやらない。体育館の中の席がひとつ空いている。しかし、悲しみに負けてはならないと、実行委員会の方達は立ちあがり、予定通り行なう事が出来た。

いすみ学園と私のご縁は、その当時、夷隅町会議員で今、いすみ市議会議員の半場新一氏に始まる。そして原井先生につながる、振り返れば40年近い歲月になる。

その出会いと、祭典の継続に感謝しながらみなさんの歌を全身で聴いていた。そして、原井先生を偲んでいた。先生、ありがとう。これから先生のご意志を受け継いで祭典を続けていきます。



榎の里祭を振り返って

今年の榎の里祭は、当日の天気は雨予報となっていた為、早々と順延を決定し、各方面に連絡を入れ、翌十月十八日の開催としました。

当日天候は回復し、内容は一部変更したものの「新たなる一步」をテーマに、地域の皆様に改めて感謝の意を込め（おもてなしの心）でお迎えすることとしました。十時三十分、園長の挨拶でスタートし、順延で心配されましたお客様も徐々に増えて、例年同様の人手となりました。ステージでの演目が順延で、国吉中学校のブラスバンドや国府台のお囃子を取り止めとなり、華やかさに欠けましたが、初参加の千葉大学ジャグリングの皆さんがその分大いに盛り上げてくださいました。利用者の皆さんも楽しんでいましたようです。模擬店は、これまで同様の唐揚げ・フランク・ポップコーンを始め、今年はおでん・ラーメン・牛丼などを用意し、さらに今年の新たな目玉として、いすみ汁（豚）を皆様に召し上がっていただきました。また、地域交流として、ヨシダ商店さんのムーミングッズの販売やスーパーランドの揚げ物等も好評でした。近隣施設からは、ときわぎ工舎のパンの販売もありましたし、「ぼっぼの丘」の産み立てたまごの販売も

行ないました。また催し物には、エステシヤンによるハンドマッサージの体験コーナーも設けました。茶道クラブでは、お茶室から飛び出し、今回は野点とし、青空の下で行いました。十二時より交流ホームでは恒例の「激安バザー」が開かれ、多数のお客様のご来場をいただきスタッフ一同嬉しい悲鳴です。十三時過ぎには、各模擬店より「残りあとわずか」との知らせも届き、盛り上がった祭りとなりました。忘れてはならないのが、会場を盛り上げた影の功労者に、いすみんの存在があります。朝から子供たちに追いかけられ、「お楽しみ抽選会」では、いすみんが自ら特賞を選ぶなど、最後まで盛り上げてくれました。感謝です！十四時頃には、各模擬店も完売し無事に榎の里祭を終了できました。スタッフ一同で片付けをし、その後、保護者・利用者・職員で、打ち上げをしました。

最後に順延にも関わらず榎の里祭に参加して下さった多くのボランティアの皆さんからお礼申し上げます。

テーマとしていた「新たなる一步」は、まだまだ期待外れだったかも知れませんが、学園の歴史には欠かす事の出来ない大切なものです。来年の榎の里祭では更なる一步を目指します。皆様、ありがとうございました。

(三上 慎一郎)



「たきのえいじ先生を囲む いすみ歌の祭典」開催

去る平成27年11月7日(土)午後、いすみ学園体育館において『たきのえいじ先生を囲む いすみ歌の祭典』が開催されました。作詞作曲家たきのえいじ先生を審査委員長にお迎えして、千葉日報社の後援をいただき、毎年開催している行事(カラオケ大会)です。

第1部は作業班対抗戦。作業班ごとに勝負曲を歌い、入賞を目指して競いました。毎年、各班の持ち味を活かした選曲の他、衣装や小道具等の演出にも工夫が凝らされ、目でみて楽しみ、耳で聞いて楽しむ、一緒にリズムののって楽しめる内容になっています。今年度も、夏をイメージした曲で大きな椰子の木が登場したり、「弾き語り風」に使われた手作りピアノが出てきたり、ステージにたくさんのウルトラマンたちが並んだりして、会場を沸かせてくれました。

第2部は歌手の藤森美仔さんの歌謡ショー。艶やかなお衣装は利用者の憧れのひとつで、「私も藤森さんのようにきれいなお着物を着てステージで歌いたい」とうっとりされている方が何人もいました。また、懐かしい歌謡曲や童謡などを中心に客席をまわりながら歌ってくれ、マイクを向けられた人は藤森さんと一緒に主役になったつも

りで熱唱し、楽しいひとときを過ごされていきました。

今回は、長年この大会を大事に続けられてきた原井元常務が亡くなって、初めての大会でした。最後の全員合唱では、会場にいる全員で原井先生への追悼の思いを込めて、いすみ学園歌を合唱しました。たきの先生の指揮で会場がひとつになり、歌う喜びや楽しさを全員が共有できたのだと思います。

今回も、利用者や職員、そして来賓の方々や保護者の皆様の気持ちが行事を支え、楽しい時間をつくりあげてくれました。どうも有難うございました。

(支援主任 鈴木 典子)



「孫の手生活支援事業」 始まる

千葉県内でいすみ市は第六位！この順位を聞いて皆さんは何を想像しますか？ いすみ市は自然溢れる里であり、海に山にレジャーも楽しめ、何より食べ物が美味しい。しかしそれは表の顔であり、現在大変深刻な問題を抱えています。それは、「高齢化」です。現在市内の高齢化率は三六・三%となっており、少なくとも三人に一人は六十五歳以上の高齢者となっています。又、県内の平均は二十四%となつて

るので、それも大きく越えてしまつていきます。その現状を知り、社会福祉法人の職員として地域に貢献が出きる事は無いのか調べたところ、市が昨年から始めた「孫の手生活支援事業」の存在を知りました。これは、七十五歳以上の高齢者世帯の日常生活における軽易な作業を援助し、作業費用の一部を助成するもので、(助成金額は、年間六千円相当の助成券を交付)①七十五歳以上の独り暮らしで市町村民税非課税の方②七十五歳以上の高齢者のみの市町村民税非課税世帯を対象としています。内容は、家の周りの草取り及び草刈りなど(利用者が現に居住する宅地の範囲内)となっております。この事業が当法人の地域貢献として合致しているのか、市の担当者や現在活動して

いる他の団体と話を重ね、実際に依頼の九十%は草刈りの依頼との事で、これならば我々でも出来ると感じ、十月に市と協定を交わしました。現在までに四件の依頼を受けましたが、実際に自宅を訪問すると、やはり庭の草が背丈まで伸びていたり、困っている事が見て感じ取れました。先日、依頼を受け草刈りをした高齢の女性の方から、「本当にありがとう。どうしようも出来なかつたので本当に助かりました」と、お礼の電話を受けました。また、ただ、始まったばかりの事業ですが地域貢献の和を法人内にも広げられればと思います。又、先々は利用者の活動の一つにも出来れば良いと考えます。共生社会、ちょっととした痒みに届く、「手」になりたいと思います。

(支援員 片岡 彰則)



クリスマス忘年会

去る12月17日にいすみ学園クリスマス忘年会が開催されました。

学園の高齢化問題を課題にしながらも、利用者の楽しみにしている行事を楽しく安全に開催するため、今年もランチタイムに実施しました。

今年は「鴨川グランドホテル」を利用する事となり、心機一転、新たな場所での開催となりました。海に面したオーシャンビュウの会場を貸し切り、この日の天候にも恵まれて会場内は綺麗に青が映えていました。利用者にとってこのクリスマス忘年会は、一年を締めくくる大事な行事であり、大きな期待とわくわくした気持ちで参加したことと思います。

クリスマス一色に飾られた会場と沢山のクリスマス料理に目を輝かせながら、「鈴木さん」の明るいかげ声と共にクリスマス忘年会は始まりました。今年、乾杯を担当してくれたのは「大貫さん」でした。十八番である「乾杯」を口ずさみ、一気に会場を和ませてくださいました。

毎年恒例の1年を振り返る「トピックス」では各作業班の1年の思い出を振り返りました。映像を利用して1年をまとめたり、クイズ形式で振り返るなど各班、個性あふれる催しで会場を沸かせてくれました。みんなが一番楽しみにしていたプレゼント贈呈では、かわいいサンタさんとトナカイさんの登場で、会場は沢山の笑い声に包まれ、皆さんいい笑顔で思い思いにプレゼントを受け取っていました。

最後はみんなで元気にダンシングタイム!!音楽が流れれば、自然と会場はダンスホールへと・・・「恋するフォークンクッキー」を職員がマリオ達に変装して会場を盛り上げてくれました。約2時間半のクリスマス会はみんなの笑顔が絶えることなく閉会となりました。

今年もクリスマス会を開催し、無事終えることが出来たことを心から感謝致します。またご協力いただきました「鴨川グランドホテル」の関係者の皆様にもこの場をお借りしてお礼申し上げます。本当に有難うございました。(片岡 恵美)



感謝録

次の皆様方から、たくさんの御寄付を頂きました。厚く御礼申し上げますと共に、今後とも尚一層の御協力をお願い致します。(順不同 敬称略)

〈寄付者〉

- ・清水文子・(有)石野薬局・實方悦子・三芳光陽園・田邊司郎・タカハシ・(有)ヨシダ・(株)三光電設・窪岡寿賀子・夷隅農産物直売所・(株)ビーアイエー・村岡静江・いたみや・しらぎく美容室・カットサロン三上・(株)新清ハイツ・妙勝寺・小山テツ江・(株)レオック・キリスト同信会茅ヶ崎集會・辻和洋・斉藤嘉津代・原井清子

〈協力者〉

- ・(株)ドン・キホーテ・ジャパーンフーズ・(株)伊藤園・(有)ヨシダ・ときわぎ工舎・POLA茂原店岡田美保

〈寄付物品〉

- ・青柳芳江・今堀享子・青木延江・小野美恵子・(有)みつやま・秋山繁子・今田正・大和久正仁・小島恵美子・片山弘恵・小山泰一・神戸一章・志田光代・佐藤文子・宿澤修・渋谷照子・北山静香・佐藤幸子・関百合子・高梨寿美枝・竹村昌子・田口久子・千葉きみ子・坂本ツネ代・濱田奈緒美・中村文子・名和壽子・田村直美・小瀧雅道・森孝子・山口千枝子・若月ヒロ子・渡辺ルミ・苅米和子・石井莊司・齊藤千恵子・斉藤みね子・鶴岡重美・(株)レオック・いたみや・新井裕二・いすみ郵便局職員一同・緑川眞由美・赤嶺江江・皆川会計事務所・すずかけ作業所・(株)新環境設計・作田青年会・山口美絵子・灰野雅文・新井洋子・第二クローバー学園・(株)新清ハイツ・吉田電気・妙勝寺・いすみ市危機管理課・いすみ農業協同組

合代表理事組合長花崎隆

寄附物品募集

いすみ学園では、個人・企業を問わず寄附物品・横を募集しています。横の里祭の「バザー用品」や利用者の為に使用する「オムツ(大人用)」「尿取りパット」「車椅子」などです。事前にご連絡を頂けると助かります。ご協力をお願いします。

平成27年度赤い羽根共同募金

45,861円

皆様の暖かい御気持ちと協力に学園一同感謝申し上げます。

ベルマークのご協力に感謝

最終ベルマーク点枚

16,633点です。

いすみ学園一同、心より感謝申し上げます。利用者ために活用したいと思います。長い間、本当にありがとうございます。

担当 鶴岡田鶴子

◆ホームページリニューアル中◆



あけましておめでとうございます。

年末・年始はゆっくり過ぎたでしょうか?新たな年を迎え、いすみ学園は創立三十二年目に入ります。そして今年の干支は猿。利口な猿のようにスマートに且つ好奇心を忘れず、さまざまな事に挑戦していきたいものです。

今年も利用者並びに職員一同元氣一杯前進してまいりますので、今後とも皆様の御支援・御協力の程、宜しくお願ひ致します。(會津 みどり)

題字は池田美由紀さんです。